



ヒメトビウンカの形態と生態

1. 形態

成虫の体長は約3～4mmでセジロウンカに比べてやや小さい。雄の背中は黒色で、雌には薄茶色の帯がある。幼虫の体色は黄色～黄褐色。

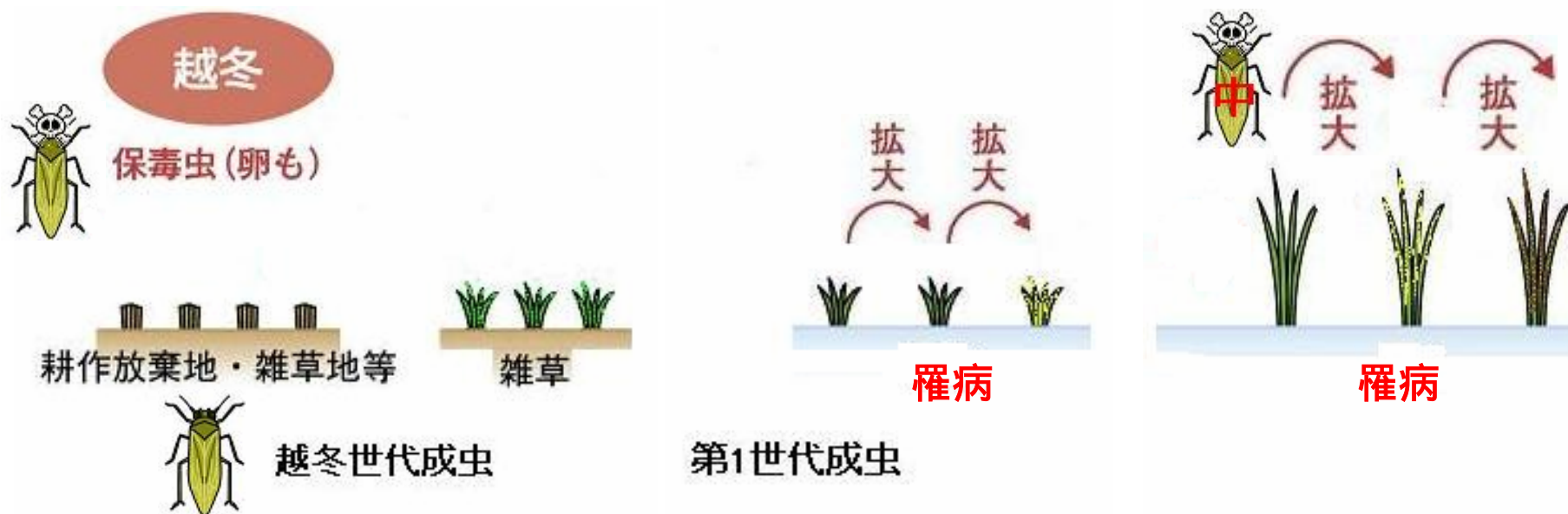




ヒメトビウンカの形態と生態

2. 生態

- ・3～4齢幼虫が畦畔や休耕田などの乾燥した雑草などの下で越冬する。
- ・越冬世代成虫は3月下旬頃から出現して4月中～下旬頃にピークとなる。成虫は越冬場所近くのイネ科植物に移動して産卵増殖する。
- ・第1世代成虫は5月下旬頃から出現して6月上中旬にピークとなり水田に侵入する。
- ・イネ株上で増殖した第2世代成虫は7月上旬頃から現れる。以降、年間4～5世代を繰り返す。





4月の採集状況

・ヒメトビウンカの20回振りすくい取り調査(4月7～20日採集)

・イネ縞葉枯病ウイルス保毒状況

地域 成虫 幼虫 計(頭)

県東部 1.68 0 1.68

県西部 1.06 0 1.06

平均 1.52 0 1.52

0.03 0 0.03

(参考:3月下旬の平年値)

地域 供試虫数 保毒虫 保毒虫率(%)

県東部 95 5 5.3

県西部 37 3 8.1

計・平均 132 8 6.1

病害虫発生予察情報 注意報第2号 (平成21年4月23日)

ヒメトビウンカ(イネ縞葉枯病)



ヒメトビウンカの特徴



メス・オス
頭頂部は突出せず平坦である

メス・オス
顔面の2条が黒い

メスの胸部背面の白斑は
セジロウンカのようにはっきりしない

メス・オス
体色は全体に淡褐色

メス成虫



ヒメトビウンカの特徴



オス成虫

メス・オス
頭頂部は突出せず平坦である

メス・オス
顔面の2条が黒い

オスの胸部背面は一様に黒い

メス・オス
体色は全体に淡褐色



ヒメトビウンカ幼虫



淡い体色～濃褐色まで